

## 平成30年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報				
事務事業名	守谷市学校経営研修事業	担当課	学校教育課	
総合計画	政策	こころ豊かに暮らせるまち	計画期間	年度～
	施策	学校教育の充実	種別	任意的事務
	基本事業	時代の変化や国際化に対応できる教育の推進	市民協働	その他
予算科目コード	01-100102-05 単独	根拠法令・条例等		

なぜ、この事業を実施しているか？ 何をどうするための事業か？	
背景（なぜ始めたのか）	内容（何の業務活動をどのような手法で行うか）
校長・教頭の資質の向上及びより良い学校運営の実践のため各種研究会・研修会に参加する。	構成団体の区域の校長，教頭相互の連帯・協調を図るため，調査・研究・研修会に参加する。（全国連合小学校長会・全日本中学校長会・茨城県校長会・関東ブロック小学校長会・関東地区中学校長会・全国公立学校教頭会・県南部ブロック研修会）
目的及び期待する効果（誰（何）をどうしたいのか）	
市立小中学校の管理職の資質向上を図り，学校運営を充実させる。	
（参考）基本事業の目指す姿	
国際化，情報化等の新しい時代に対応した教育を実施する。	

事業の課題認識，改善の視点（次年度にどう取り組むか）	
目的達成のための課題（問題点，現状分析，課題設定）	具体的内容とスケジュール
改善内容（課題解決に向けた解決策）	
次年度のコストの方向性（→その理由）	
<input type="checkbox"/> 増加 <input type="checkbox"/> 維持 <input type="checkbox"/> 削減	

H29年度の評価（課題）を受けて、どのように取り組んだか（H30年度の振り返り）	
H29年度の評価（課題）	H30年度 of 取組（評価、課題への対応）

評価（指標の推移、今後の方向性）					
指標名	基準値（H26）	H29年度	H30年度	R01年度	目標値（R03）
	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
成果の動向（→その理由）					
<input type="checkbox"/> 向上 <input type="checkbox"/> 横ばい <input type="checkbox"/> 低下					
今後の事業の方向性（→その理由）					
<input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 改善・効率化 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 維持 <input type="checkbox"/> 廃止・終了					

コストの推移						
項目		H28年度決算	H29年度決算	H30年度決算	R01年度予算	R02年度見込
事業費	計	1,225	1,231	1,238	1,247	1,247
	国・県支出金	0	0	0	0	0
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0
	一般財源	1,225	1,231	1,238	1,247	1,247
正職員人工数（時間数）		0.00	0.00	2.00	0.00	0.00
正職員人件費		0	0	8	0	0
トータルコスト		1,225	1,231	1,246	1,247	1,247

平成30年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報				
事務事業名	小学校 I C T 教育環境整備事業	担当課	学校教育課	
総合計画	政策	こころ豊かに暮らせるまち	計画期間	平成 6年度～
	施策	学校教育の充実	種別	任意の事務
	基本事業	時代の変化や国際化に対応できる教育の推進	市民協働	その他
予算科目コード	01-100202-04 単独	根拠法令・条例等		

なぜ、この事業を実施しているか？ 何をどうするための事業か？	
背景（なぜ始めたのか）	内容（何の業務活動をどのような手法で行うか）
<p>高度情報化社会の進展に対応し、パソコン機器等に慣れ親しむことを基本としながら、児童の学習意欲を高め、思考を深め表現力を広げるとともに、情報手段を主体的に選択し活用するための能力を育成することを目的として開始した。</p>	<p>校務用パソコン、教育用タブレットパソコン、電子黒板、インターネット接続環境等の整備・更新を行う。</p>
<p>目的及び期待する効果（誰（何）をどうしたいのか）</p> <p>高度情報化社会の進展に対応した学習環境を整備し、児童の学習意欲や思考力、表現力の向上を図る。また、パソコン機器等に慣れ親しむことを基本とし、技能を身に付けさせる。</p>	
<p>（参考）基本事業の目指す姿</p>	
<p>国際化、情報化等の新しい時代に対応した教育を実施する。</p>	

事業の課題認識、改善の視点（次年度にどう取り組むか）	
目的達成のための課題（問題点、現状分析、課題設定）	具体的内容とスケジュール
<p>ICT教育環境を有効的に活用するため、研修等を実施することにより、教員の活用能力の向上が必要となっている。環境整備に関する経費が年々増加している。</p>	<p>ICT教育環境の活用するため、実践研修を実施する。</p> <p>4月 日程調整 適時 研修・サポートの実施</p>
<p>改善内容(課題解決に向けた解決策)</p> <p>活用研修を継続的に行い教員の指導能力の向上を行う。 リースアップした機器の再リースを行い、経費を削減する。</p>	
次年度のコストの方向性（→その理由）	
<p>■増加 □維持 □削減</p>	<p>情報機器の更新が必要なため、経費は増加する。</p>

H29年度の評価（課題）を受けて、どのように取り組んだか（H30年度の振り返り）	
H29年度の評価（課題）	H30年度 of 取組（評価、課題への対応）
ICT教育環境維持及び利用のために必要となる機器・ソフトウェアの保守を図った。	ICT教育環境維持及び利用のために必要となる機器・ソフトウェアの保守を図るとともに校務支援システムを導入した。

評価（指標の推移、今後の方向性）					
指標名	基準値（H26）	H29年度	H30年度	R01年度	目標値（R03）
児童用コンピュータ整備数（児童数／台数）（人）	9.60	3.10	3.10	3.10	1.00
	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
成果の動向（→その理由）					
<input checked="" type="checkbox"/> 向上 <input type="checkbox"/> 横ばい <input type="checkbox"/> 低下	校務効率化のため、システムを導入した。				
今後の事業の方向性（→その理由）					
<input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 改善・効率化 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input checked="" type="checkbox"/> 維持 <input type="checkbox"/> 廃止・終了	ICT教育環境を維持する。				

コストの推移						
項目		H28年度決算	H29年度決算	H30年度決算	R01年度予算	R02年度見込
事業費	計	100,282	130,674	140,349	139,278	140,000
	国・県支出金	0	0	0	0	0
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	0	40,627	25,284	30,000	0
	一般財源	100,282	90,047	115,065	109,278	140,000
正職員人工数（時間数）		149.00	126.00	114.00	0.00	0.00
正職員人件費		611	517	476	0	0
トータルコスト		100,893	131,191	140,825	139,278	140,000

平成30年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報				
事務事業名	中学校 I C T 教育環境整備事業	担当課	学校教育課	
総合計画	政策	こころ豊かに暮らせるまち	計画期間	平成 6年度～
	施策	学校教育の充実	種別	任意的事務
	基本事業	時代の変化や国際化に対応できる教育の推進	市民協働	その他
予算科目コード	01-100302-04 単独	根拠法令・条例等		

なぜ、この事業を実施しているか？ 何をどうするための事業か？	
背景（なぜ始めたのか）	内容（何の業務活動をどのような手法で行うか）
<p>高度情報化社会の進展に対応し、パソコン機器等に慣れ親しむことを基本としながら、生徒の学習意欲を高め、思考を深め表現力を広げるとともに、情報手段を主体的に選択し活用するための能力を育成することを目的として開始した。</p>	<p>校務用パソコン、教育用タブレットパソコン、電子黒板、インターネット接続環境等の整備・更新を行う。</p>
目的及び期待する効果（誰（何）をどうしたいのか）	
<p>高度情報化社会の進展に対応した学習環境を整備し、生徒の学習意欲や思考力、表現力の向上を図る。社会にあふれている情報を主体的に選択し、活用するための能力を育成する。</p>	
（参考）基本事業の目指す姿	
<p>国際化、情報化等の新しい時代に対応した教育を実施する。</p>	

事業の課題認識、改善の視点（次年度にどう取り組むか）	
目的達成のための課題（問題点、現状分析、課題設定）	具体的内容とスケジュール
<p>ICT教育環境を有効的に活用するため、研修等を実施することにより、教員の活用能力の向上が必要となっている。環境整備に関する経費が年々増加している。</p>	<p>ICT教育環境の活用するため、実践研修を実施する。 4月 日程調整 適時 研修・サポートの実施</p>
改善内容（課題解決に向けた解決策）	
<p>活用研修を継続的に行い教員の指導能力の向上を行う。 リースアップした機器の再リースを行い、経費を削減する。</p>	
次年度のコストの方向性（→その理由）	
<p>■増加 □維持 □削減</p>	<p>情報機器の更新が必要なため、経費は増加する。</p>

H29年度の評価（課題）を受けて、どのように取り組んだか（H30年度の振り返り）	
H29年度の評価（課題）	H30年度 of 取組（評価、課題への対応）
ICT教育環境維持及び利用のために必要となる機器・ソフトウェアの保守を図った。	ICT教育環境維持及び異利用のために必要となる機器・ソフトウェアの保守を図るとともに校務支援システムを導入した。

評価（指標の推移、今後の方向性）					
指標名	基準値（H26）	H29年度	H30年度	R01年度	目標値（R03）
生徒用コンピュータ整備数（生徒数／台数）（人）	6.10	2.90	3.00	3.00	1.00
	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
成果の動向（→その理由）					
<input checked="" type="checkbox"/> 向上 <input type="checkbox"/> 横ばい <input type="checkbox"/> 低下	校務効率化のため、システムを導入した。				
今後の事業の方向性（→その理由）					
<input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 改善・効率化 <input checked="" type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 維持 <input type="checkbox"/> 廃止・終了	I C T 教育環境を維持する。				

コストの推移						
項目		H28年度決算	H29年度決算	H30年度決算	R01年度予算	R02年度見込
事業費	計	49,715	60,944	65,355	67,565	68,000
	国・県支出金	0	0	0	0	0
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	0	18,946	10,653	14,934	0
	一般財源	49,715	41,998	54,702	52,631	68,000
正職員人工数（時間数）		115.00	98.00	59.00	0.00	0.00
正職員人件費		472	402	246	0	0
トータルコスト		50,187	61,346	65,601	67,565	68,000

平成30年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報				
事務事業名	外国語教育推進事業	担当課	指導室	
総合計画	政策	こころ豊かに暮らせるまち	計画期間	平成13年度～
	施策	学校教育の充実	種別	任意の事務
	基本事業	時代の変化や国際化に対応できる教育の推進	市民協働	その他
予算科目コード	01-100103-04 単独	根拠法令・条例等		

なぜ、この事業を実施しているか？ 何をどうするための事業か？	
背景（なぜ始めたのか）	内容（何の業務活動をどのような手法で行うか）
<p>グローバル化が加速度的に進み、国際社会で活躍できる人材育成が求められる中において、本市では平成13年度から外国語指導助手（ALT）を全小中学校に配置している。平成23年度には、文部科学省教育課程特例校の指定を受け、小学校1年生から英語の授業を行っている。平成32年度以降の新学習指導要領の施行に伴う小学校高学年の外国語の教科化や授業時数増にも対応した、小中学校9年間を一貫した外国語教育を推進している。</p>	<p>外国語教育を推進するため、市内小中学校に13人の外国語指導助手（ALT）を配置し、業務を委託する。                  小学校1年生及び2年生の英語活及び小学校3年生から6年生の外国語活動、中学校外国語（英語）科の時間に、ALTも加わり英語指導を行う。                  授業以外にも、給食と一緒に食べたり、休み時間等を共に過ごしたりすることで国際教育の充実を図る。                  ALTは、守谷市で行われる英語に係る行事や対外的な英会話コンクール（インタラクティブ・フォーラム）やスピーチコンテスト等の指導助言も積極的にを行い、担当教員と共に総合的な英語教育の推進を図る。</p>
目的及び期待する効果（誰（何）をどうしたいのか）	
<p>「英語で発信し合える児童生徒」の育成を目指し、小中学校の系統性を重視した外国語教育及び国際教育を推進する。小学校では、1年生からALTと共に英語を学ぶことができる授業を通してコミュニケーションを図る素地を育成する。また、中学校では、4技能を積極的に活用する言語活動を通して、コミュニケーションを図る基礎を育成する。小中学校9年間を通して、英語を母国語とするALTとの日常的な触れ合いを通して、国際教育の充実を図る。</p>	
（参考）基本事業の目指す姿	
<p>グローバル化、情報化等の新しい時代に対応した教育を実施する。</p>	

事業の課題認識、改善の視点（次年度にどう取り組むか）	
目的達成のための課題（問題点、現状分析、課題設定）	具体的内容とスケジュール
<p>平成32年度（小学校）の新学習指導要領の完全実施を2年後に控え、守谷市独自の外国語教育カリキュラムの改編が必要とされている。担任（小学校）や英語教師（中学校）とALTとの業務上の円滑な連携が難しい場面が生じているため、レッスンプランを丁寧に作成することが必須となっている。</p>	<p>授業参観を主とした研修を今年度は3回実施する。                  平成31年度以降のALT業務委託業者を選定するため、プロポーザルを実施する。（12月 審査会、2月 契約締結）                  新学習指導要領に対応した「守谷型外国語教育指導計画」を作成する。                  小学校スピーチコンテストを実施する。（2月予定）</p>
改善内容（課題解決に向けた解決策）	
<p>各校が作成した週ごとや月毎のレッスンプランの内容を把握する。また、新学習指導要領の実施に向けた研修や授業研究を、教師とALTが合同で行い、小学1年生からの外国語教育の学びの連続性を確認し、昨年度同様、継続的に授業改善を行っている。                  授業者とALTの業務上の連携に関して、委託会社の援助を受けながら円滑な連携を行うよう努める。</p>	
次年度のコストの方向性（→その理由）	
<p><input type="checkbox"/> 増加  <input checked="" type="checkbox"/> 維持  <input type="checkbox"/> 削減</p>	<p>外国語教育は、守谷の学校教育の特色の一つである。今後も事業を継続していき、英語に親しみ、英語で語り合うことができる児童生徒の育成を図っていくため、コストを維持する。</p>

H29年度の評価（課題）を受けて、どのように取り組んだか（H30年度の振り返り）	
H29年度の評価（課題）	H30年度を取組（評価、課題への対応）
<p>新学習指導要領の実施に向けた研修や授業研究を教師とALTが合同で行い、小学1年からの外国語教育の学びの連続性を確認し、授業改善を行った。</p> <p>授業者とALTの業務上の連携に関して、委託会社の援助を受けながら円滑な連携を行うよう努めた。</p>	<p>新学習指導要領の実施に向けた授業参観と研究協議を主とした研修を、3回実施した。</p> <p>平成31年度以降のALT業務委託業者を選定するため、プロポーザルを実施する。（12月 審査会、3月 契約締結）</p> <p>小学生スピーチコンテストと中学生インタラクティブフォーラムを合わせたイングリッシュ・フォーラムを2月に開催した。</p> <p>小学生を対象とした「ALTとあそぼう・話そう」を8回、小学校高学年児童を対象とした「イングリッシュ・キャンプ」を11月に実施した。</p>

評価（指標の推移、今後の方向性）					
指標名	基準値（H26）	H29年度	H30年度	R01年度	目標値（R03）
英語活動・外国語活動を「楽しい」と感じている児童の割合（%）	0.00	92.00	89.20	0.00	0.00
中学校3年時における英語検定3級以上の取得率（%）	0.00	45.00	52.63	0.00	0.00
成果の動向（→その理由）					
<input checked="" type="checkbox"/> 向上 <input type="checkbox"/> 横ばい <input type="checkbox"/> 低下	<p>「英語活動・外国語活動を楽しい」と感じている児童の割合が低下した一方で、中学校3年生の実用英語検定取得率が、50%を超えた。</p> <p>また、教職員とALTによる実践的な研修の充実や、英語を発表したり英語で表現したりする機会となる守谷市独自の取組を新たに始めたことで、外国語の授業が充実するだけでなく、ALTの積極的な活用により、英語に係るコンテスト等に積極的に参加し好成績を収めることができた。ALTとのかかわりを通して、学校外の英語の行事に参加したり、資格試験に挑戦したりする児童生徒が増加している。</p>				
今後の事業の方向性（→その理由）					
<input checked="" type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 <input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input checked="" type="checkbox"/> 改善・効率化 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 廃止・終了	<p>小学校高学年の教科化に伴う授業時数増やALTとの外国語の授業へのニーズが高まる中、大規模の小学校においては外国語の授業全てにALTがかかわることがむずかしくなることが想定される。そのため、大規模の小学校へのALTの複数配置を図ることで、これまでのALTとの外国語の授業の質が保たれると考える。</p>			

コストの推移						
項目		H28年度決算	H29年度決算	H30年度決算	R01年度予算	R02年度見込
事業費	計	58,015	58,165	58,209	68,561	68,561
	国・県支出金	0	0	0	0	0
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0
	一般財源	58,015	58,165	58,209	68,561	68,561
正職員人工数（時間数）		204.00	453.00	465.00	0.00	0.00
正職員人件費		836	1,857	1,941	0	0
トータルコスト		58,851	60,022	60,150	68,561	68,561

平成30年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報			
事務事業名	中学生社会体験事業	担当課	指導室
総合計画	政策	こころ豊かに暮らせるまち	計画期間
	施策	学校教育の充実	種別
	基本事業	時代の変化や国際化に対応できる教育の推進	市民協働
予算科目コード	01-100103-15	根拠法令・条例等	

なぜ、この事業を実施しているか？ 何をどうするための事業か？	
背景（なぜ始めたのか）	内容（何の業務活動をどのような手法で行うか）
平成12年度に茨城県教育委員会からの受託事業として開始した。平成15年度からは市の事業として継続している。	市内の事業所を中心に1日6～8時間、2日～3日間の職場体験活動を行う。製造、飲食、福祉施設、販売、理容美容、市役所、図書館、保育所・幼稚園等、多種の職種で延べ130を越す事業所での体験を行う。
目的及び期待する効果（誰（何）をどうしたいのか）	
市内中学校2年生に社会体験の機会を設定し、望ましい勤労観・職業観を育成することを目的とする。	
(参考) 基本事業の目指す姿	
国際化、情報化等の新しい時代に対応した教育を実施する。	

事業の課題認識、改善の視点（次年度にどう取り組むか）	
目的達成のための課題（問題点、現状分析、課題設定）	具体的内容とスケジュール
各中学校の計画に基づき、中学2年生全員を対象に実施している。実施時期や事業所も各校によって異なっている。毎年、生徒の希望も考慮して事業所を決定している。全員対象としているが、不登校などの理由で、参加ができない生徒もいる。	各中学校の計画に基づき実施する。 ・1, 2学期に職場体験学習を実施する。 ・3月の学校アンケートにより、事業所ごとの参加人数を把握する。 不登校生徒に対しては、家庭訪問等を行い、生徒の興味・関心を把握し、希望事業所への体験を可能にしていく。
改善内容(課題解決に向けた解決策)	
各中学校に調査を実施し、事業所ごとの参加生徒人数を把握する。不登校生徒に対しては、社会参加へつなげるためにも、本人の興味・関心の高い事業所を確認し、参加を促す。	

次年度のコストの方向性（→その理由）	
<input type="checkbox"/> 増加 <input checked="" type="checkbox"/> 維持 <input type="checkbox"/> 削減	本事業はキャリア教育の一環として取り組んでいる事業であり、生徒の望ましい勤労観・職業観を育成するために必要な事業であるため、コストを維持する。

H29年度の評価（課題）を受けて、どのように取り組んだか（H30年度の振り返り）	
H29年度の評価（課題）	H30年度を取組（評価、課題への対応）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中学2年生を対象に社会体験を行っているが、可能な限り生徒の希望を配慮して事業所を決定したいと考えているため、多くの事業所の協力が必要である。</li> <li>・ 各中学校の計画に基づき実施しているが、不登校等により参加できない生徒への対応が必要である。</li> </ul>	<p>キャリア教育の一環として、生徒が充実した社会体験を行えるように、以下のことに取り組んできた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生徒の希望に配慮し、240ヶ所の事業所でご協力をいただき社会体験を行うことができた。今年度は校外学習で民泊を計画し、農業に触れた体験もあった。生徒の希望も多様になってきているため、今後も協力事業所を増やしていきたい。</li> <li>・ 不登校等により参加できない生徒にもできる限り同体験をさせたいと考え、興味ある事業所を探したり、別日を設けたりと個別の対応を心がけた。今後も同様に配慮ある対応をしていきたい。</li> </ul>

評価（指標の推移、今後の方向性）					
指標名	基準値（H26）	H29年度	H30年度	R01年度	目標値（R03）
社会体験（職場体験）に参加した生徒の割合（人）	0.00	99.00	99.00	99.00	99.00
実施した事業所数（カ所）	0.00	240.00	240.00	240.00	240.00
成果の動向（→その理由）					
<input type="checkbox"/> 向上 <input checked="" type="checkbox"/> 横ばい <input type="checkbox"/> 低下	・ 生徒の希望に配慮した事業所への依頼や不登校等生徒への対応等の取組により、生徒の望ましい勤労観・職業観が養われている。将来を見据えるキャリア教育という点で有意義な体験であることは、学校、保護者ともに評価をしている。よって、今後も課題改善を図りながら、継続していきたい。				
今後の事業の方向性（→その理由）					
<input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 <input checked="" type="checkbox"/> 維持	<input type="checkbox"/> 改善・効率化 <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 廃止・終了	・ 生徒の希望に即して新たな事業所への協力依頼や不登校等生徒への対応等、課題として改善していく部分はあるが、有意義な体験活動として今後も継続していきたい。			

コストの推移						
項目		H28年度決算	H29年度決算	H30年度決算	R01年度予算	R02年度見込
事業費	計	228	231	237	216	0
	国・県支出金	0	0	0	0	0
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0
	一般財源	228	231	237	216	0
正職員人工数（時間数）		5.00	40.00	0.00	0.00	0.00
正職員人件費		21	164	0	0	0
トータルコスト		249	395	237	216	0